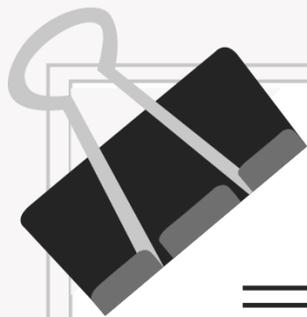


———— [REPORT] ————
プロジェクトA Part2
がん教育
活動報告書

美祢市市民福祉部健康増進課 課長 池部稔雄、副主幹 末永直美
主査 吉岡清絵、主任 藤井菜都峰
保健師 穂山敦美、草場真梨
山口県立大学 看護栄養学部 講師 高田千鶴

令和7年 3月 25日



[目次]

01

プロジェクト概要

プロジェクトの背景と目的

02

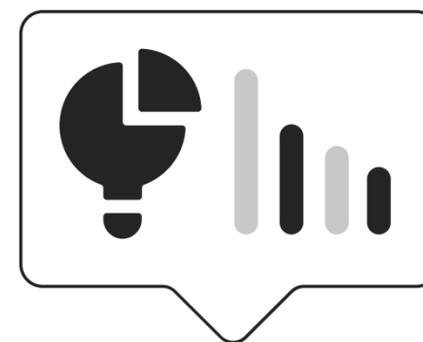
実践内容の紹介

本年度の主な取り組み

03

まとめ

4年間の評価





01

プロジェクト概要

プロジェクトの背景と目的

背景

日本人の死因の第1位は、がんである。

- がんの罹患率の高さ(2人に1人ががんになる時代)

⇔ がん検診の受診率の低さ

- がん対策推進基本計画(第3期→第4期)

→ がん対策の推進を支える基盤としての「がん教育及びがんに関する知識の普及啓発」

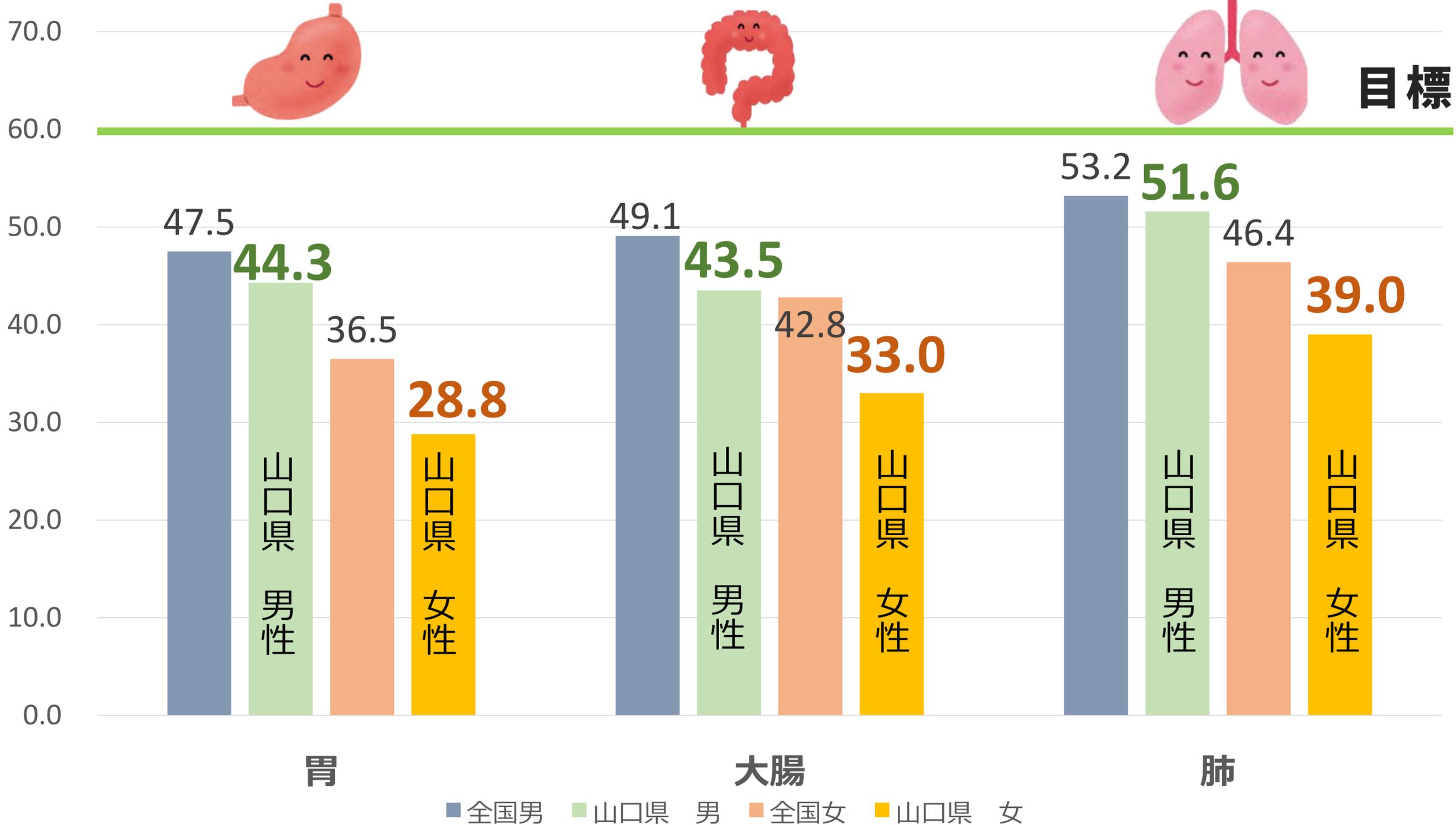
- 小中学校の学習指導要領に位置づけられた

→ 外部講師活用によるがん教育の推進(文部科学省)

日本のがん検診達成目標は、**60%**以上

割合 (%)

がん検診を受けた人の割合



出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」男女別がん検診受診率：40～69歳/過去1年間（2022）より高田作図

がん検診（けんしん） 受けた人の割合：40～69歳男性の場合

全国順位：山口は低い

	胃	大腸（だいちょう）	肺（はい）
37位	福井県	鹿児島県	山口県
38位	栃木県	福岡県	徳島県
39位	山口県	埼玉県	和歌山県
40位	和歌山県	徳島県	福岡県
41位	北海道	北海道	埼玉県
42位	沖縄県	和歌山県	兵庫県
43位	大阪府	山口県	長崎県
44位	兵庫県	大阪府	北海道
45位	埼玉県	京都府	大阪府
46位	長崎県	長崎県	京都府
47位	京都府	沖縄県	沖縄県

出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」男女別がん検診受診率：40～69歳/受診間隔は、過去1年間（2022）より高田作図

がん検診（けんしん） 受けた人の割合：40～69歳女性の場合

全国順位：山口県は低い

	胃	大腸（だいちょう）	肺（はい）
37位	茨城県	兵庫県	埼玉県
38位	愛媛県	福岡県	徳島県
39位	長崎県	和歌山県	長崎県
40位	和歌山県	広島県	広島県
41位	埼玉県	大阪府	兵庫県
42位	奈良県	徳島県	福岡県
43位	京都府	沖縄県	山口県
44位	大阪府	長崎県	京都府
45位	兵庫県	京都府	大阪府
46位	北海道	山口県	奈良県
47位	山口県	北海道	北海道

出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」男女別がん検診受診率：40～69歳/受診間隔は、過去1年間
(2022)より高田作図

がん教育の目標

①がんについて**正しく理解**することができるようにする

がんが身近な病気であることや、がんの予防、早期発見・検診等について関心をもち、正しい知識を身に付け、適切に対処できる実践力を育成する。また、がんを通じて様々な病気についても理解を深め、健康の保持増進に資する。

②**健康と命の大切さ**について**主体的に考える**ことができるようにする

がんについて学ぶことや、がんと向き合う人々と触れ合うことを通じて、自他の健康と命の大切さに気付き、自己の在り方や生き方を考え、共に生きる社会づくりを目指す態度を育成する。

出典：学校におけるがん教育の在り方について報告 平成27年3月「がん教育」の在り方に関する検討会

目的

1.美祢市における小中学生へのがん教育の普及

→がんについて**正しく理解**することができる

→**健康と命の大切さ**について**主体的に考える**ことができる

2.LPM (Learning Partner Model) の考え方を活用した家庭への**教育効果の波及**

→がんについて**正しく理解**し、適切に対処できる

→**検診受診行動の促進**(がん検診の受診率の向上)



これまでの流れ

令和3(2021)年度

- ①美祢市版の指導案・教材の作成
- ②大学による出前講義

令和4(2022)年度

大学による出前講義(一部公開授業)

令和5(2023)年度

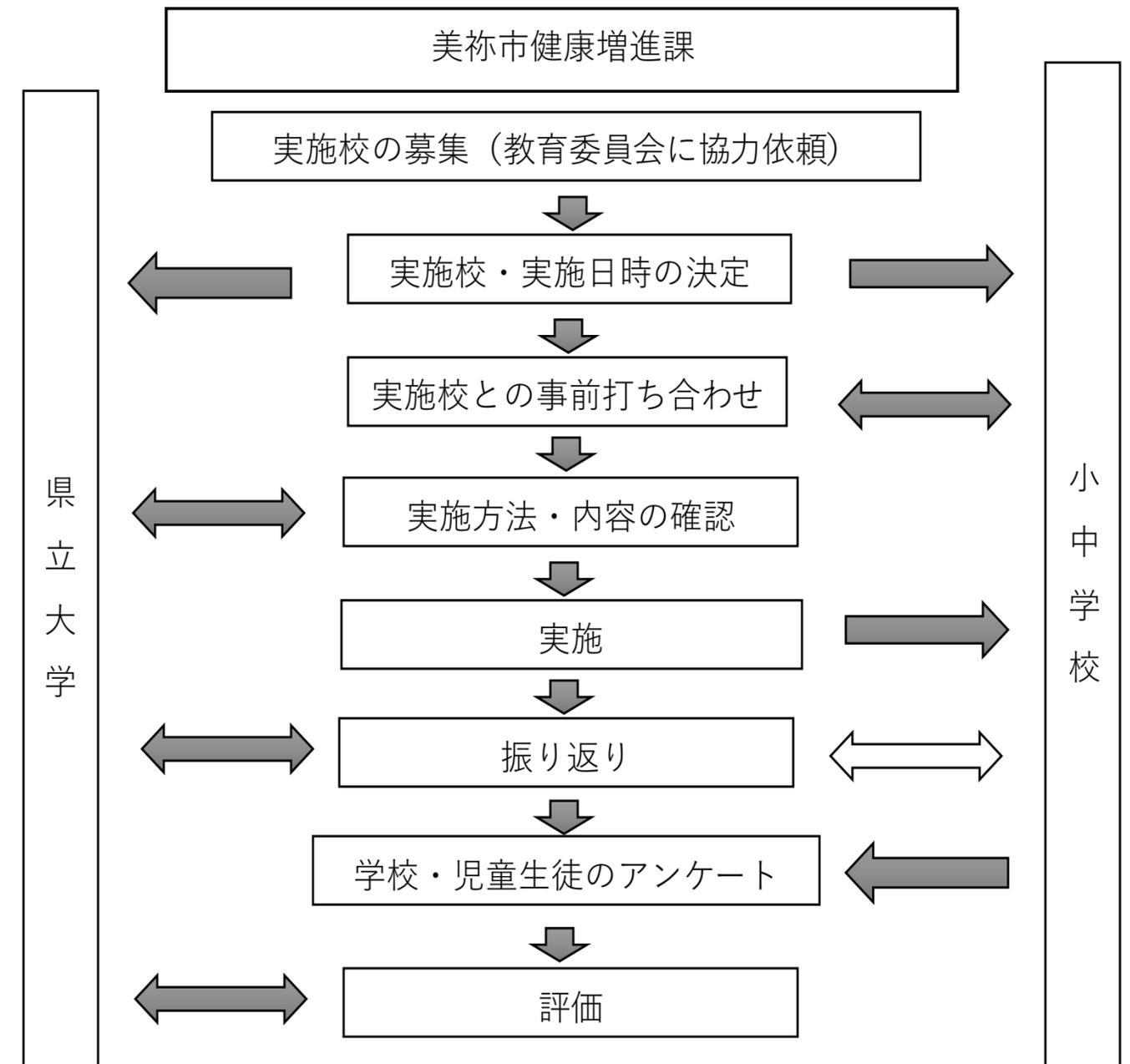
- ①大学による出前講義
→ 全小中学校で少なくとも1回は実施
- ②健康増進課保健師と教諭・養護教諭との
チームティーチングの指導案の作成
授業の実施
- ③指導用教材の配布

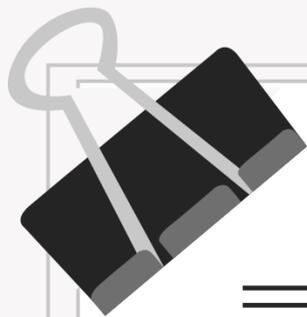
令和6(2024)年度

- ①健康増進課保健師全員が、がん教育を実施
- ②がん教育の継続実施

→ 選べる指導方法: 出前授業、チームティーチング、健康に関する教育参観日(保護者の参加)

→ 住みます芸人さんとのコラボレーションによる授業





[プロジェクト概要]

美祢市における小中学生へのがん教育の普及と家庭への教育効果の波及を目指す

本プロジェクトは、令和5年度に山口県立大学が作成したがん教育プログラムをもとに、美祢市市民福祉部健康増進課保健師と住みます芸人さんとのコラボレーションによる小・中学校における「がん教育」の出前授業を継続して実施している。がん教育の目標は、がんについて正しく理解し、健康と命の大切さについて主体的に考えることである。



期待される成果



小中学校におけるがん教育の普及
・小学校5校、中学校4校で実施



児童生徒への教育効果

- ①生活習慣の改善
- ②健康と命、がん検診の大切さ



家庭への教育効果の波及

- ①生活習慣改善
- ②がん検診受診率向上



教育効果の評価を段階的に行う

- ①がん教育実施の定着
- ②がん検診受診率向上



健康増進課保健師全員が、がん教育の実施を目指す。

[プロジェクトの具体的な内容]

01 準備



募集

健康増進課保健師が、教育委員会へがん教育の実施状況の報告を行う。
さらに、健康増進課保健師が校長会へ出席して小中学校におけるがん教育実施について募集を行う。

02 実施



小中学校での
がん教育の実施

「がん教育」申込書を用いて、小中学校におけるがん教育実施希望を把握、学校との事前打ち合わせ後、がん教育を行った。

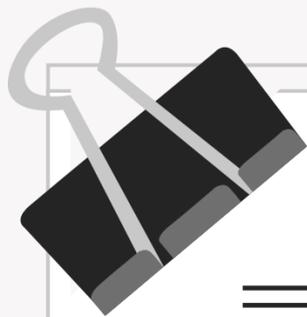
03 評価



がん教育実施後の会議
アンケート調査結果

がん教育実施後の会議や児童生徒および教職員を対象にした授業と授業後アンケート調査結果より振り返りを行い、課題を次回のがん教育に活かした。

学校と連携しながら、小中学校でのがん教育実施を継続して行っている。



健康増進課保健師全員が、がん教育を実施した。

[進捗度]

01 準備

健康増進課保健師が、教育委員会へがん教育の実施状況報告（3月実施、完了）。校長会へ健康増進課保健師が出席して小中学校におけるがん教育実施について募集を行った（5月実施、完了）。

完了率: **100%**

02

小中学校におけるがん教育の実施

がん教育の実施希望を把握、計画立案に反映した。
令和6年度のがん教育実施校は、小学校5/11校、中学校4/5校であった。

令和6年度に計画したがん教育は、すべて実施した。

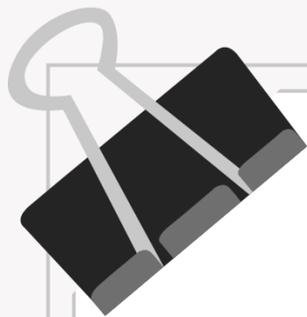
がん教育の取組は、各学校のカリキュラムによる。完了率の算出はせず。

03

がん教育実施後の会議 アンケート調査結果

がん教育実施後の会議や児童生徒および教職員を対象にした授業と授業後アンケート調査結果より振り返りを行い、課題を次回のがん教育に活かすことができた。

完了率: **100%**



02

実践内容の紹介

本年度の主な取り組み

活用した教材

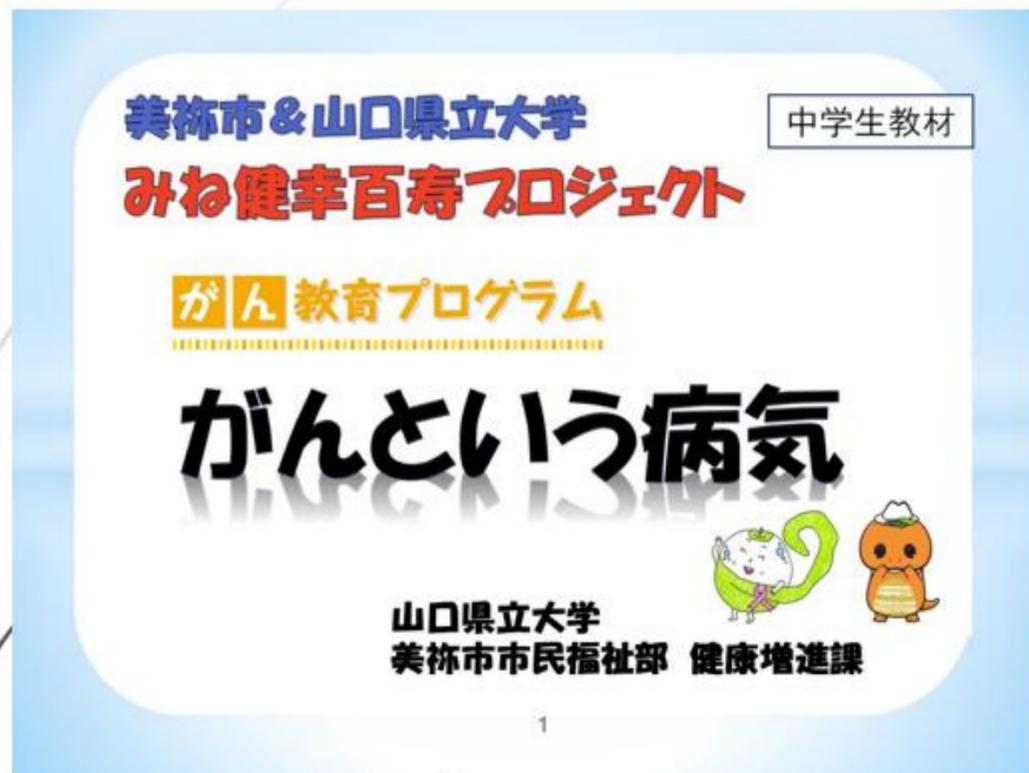
美祢市&山口県立大学
みね健幸百寿プロジェクト

中学生教材

がん教育プログラム

がんという病気

山口県立大学
美祢市市民福祉部 健康増進課



美祢市&山口県立大学
みね健幸百寿プロジェクト

がん教育プログラム

がんを学ぼう！ あなたと大切な人のいのちのために

美祢市健康増進計画キャラクター

山口県立大学
美祢市市民福祉部 健康増進課



Q3 「がん」
の原因は
何だろう？

美祢市健康増進計画キャラクター



美祢市のキャラクターを
活用したパワーポイント

早く発見し、
早くちりょうすれば
がんは治ることが増えています



令和6(2024)年度

①健康増進課保健師全員が、がん教育を実施

②がん教育の継続実施

→選べる指導方法:出前授業、チームティーチング、健康に関する教育参観日(保護者の参加)

→住みます芸人さんとのコラボレーションによる授業

→指導方法の工夫

①健康増進課保健師全員が、がん教育を実施

【意図】

- ・人事異動等で所属先が変わっても、健康増進課保健師の誰もが、がん教育を実施し継続できる。

【強み】

- ・それぞれの保健師の個性、持ち味を活かした。
- ・児童生徒だけではなく、一緒に聴講していた保護者の反応をキャッチしながら進行した。

②がん教育の継続実施：指導方法の工夫

●小中学校の指導体制・協力体制の強み

【児童生徒の心理面への配慮】

- ・チームティーチングでは、担任教諭による導入、展開
「途中で退室しても構わないこと」
- ・がん教育の授業に養護教諭が入ることによる見守り、安心感

【児童生徒の思考の整理、表出を助ける】

●事前打ち合わせをすることの意義

- ・がん教育の進め方に関する共通理解
- ・学校や担任教諭、科目担当教諭の意向を踏まえた授業が展開できる

●事後打ち合わせをすることの意義

- ・良かった点、改善の余地がある点を共有し、次の実践に活かせる

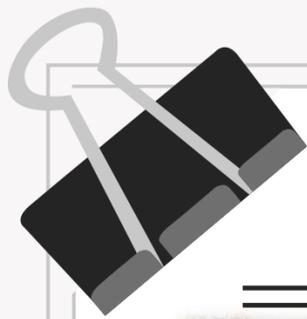
②がん教育の継続実施：指導方法の工夫

●芸人さんが一緒に授業に入る意義

- ・ 私たちも一緒に勉強しますというスタンス
- ・ 芸人さんが、3つのタイプ（面倒くさがり、怖がり、自信過剰）を実演
→タイプ別に、どのように声をかけたらよいかを考え、発表
- ・ 楽しく学ぶことができる

●教授法の工夫

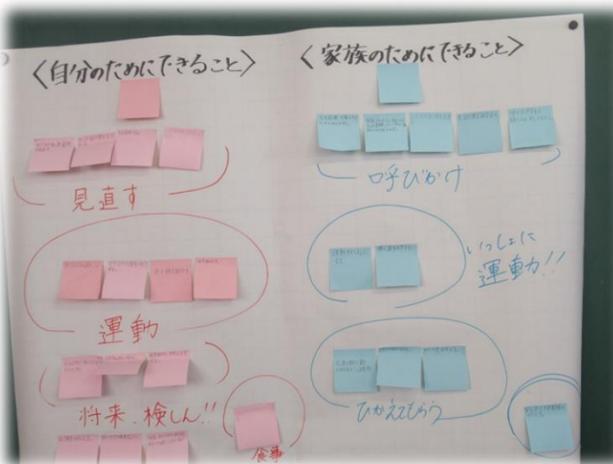
- ・ がん予防について、「自分」と「大切な人のためにできること」
→同時に2項目の思考をすること（小学生にはやや難しい可能性がある）
→付箋紙の色を分けた：自分のため、家族や大切な人のため



[がん教育の実際]



主体的に考える



がんを予防するために

自分のためにできること、家族のためにできることを考え、意見を出し合いました。

(授業のポイント)

- 命の偶発性、有限性、連続性
- がんについて理解する
- 自分、大切な人のためにできること

写真は、自分のためにできること、家族のためにできることを付箋紙に書いて発表している姿

教諭の感想：集中して授業を受けることができ、想像して未来の自分までの「できること」を見つけることもできたと思います。数少ない人数のうえ、欠席もありましたが、芸人さんの明るさで和むこともできました。

未来の自分に向けたメッセージを書いた児童がいました。指導者として嬉しくなった瞬間でした。

[がん教育実施後アンケート結果]

Q：がんを早く見つけて治すためには、**がん検診を受けることが必要だ**とわかりましたか？

正しく理解

	わかった	まあまあわかった	わからなかった
小学生	78 (89%)	10 (11%)	0 (0%)
中学生	111 (95%)	6 (5%)	0 (0%)

Q：大人になったら、**がん検診を受けよう**と思いますか？

	思う	わからない	思わない
小学生	64 (73%)	22 (25%)	2 (2%)
中学生	88 (75%)	29 (25%)	0 (0%)

Q：**がん教育**で学んだことや感じたことをおうちの人に話しましたか？

教育効果

	できた	できなかった
小学生	60 (68%)	28 (32%)
中学生	80 (68%)	37 (32%)

[がん教育実施後アンケート結果（小学校）]

児童

■がんについて **正しく理解**

- ・身近な病気、2人に1人がかかる
- ・命にかかわること

■予防

- ・家族と一緒に運動をしよう
- ・運動、食事

■おうちの人や友達へ伝える

- ・がん検診に行ってほしい
- ・健診を受けなければ命を守れない
- ・対策をすれば治るかもしれない
- ・2人に1人がなる
- ・ビール、たばこの影響

教育効果



保護者

■がんについて

- ・美祢市のがん検診の受診率が気になる
- ・2人に1人がかかる
- ・昔と異なり、早期発見をすることで治る病気になっている

■予防

- ・子どもと一緒に運動ができれば
- ・生活習慣を見直すことが大事
- ・がん検診を受けてみよう

教育効果

■学習活動について

- ・難しいテーマだが、子ども達は自分なりに理解していた。
- ・いろいろな意見が出てすばらしい
- ・小学校のころから学ぶことは大事
- ・わかりやすい
- ・楽しい授業風景、楽しく学んだ
- ・芸人さんのかけあいが面白い

■子供たちへの思い

- ・子ども達が自分たちの命を大切に、
今から人生を過ごしてほしい

[がん教育実施後アンケート結果（中学校）]

生徒

■がんについて **正しく理解**

- ・誰でもなる病気
- ・身近なもの
- ・2人に1人がなる可能性が高い
- ・早期発見で治る確率がグッと上がる
- ・早期発見で、9割が治療で治すことができる
- ・立ち向かえる病気ということ
- ・原因はさまざま

■予防

- ・定期的な検診
 - ・今からでも遅くない。検診に行ってほしい。
 - ・大人になったら、がん検診を受けたほうがいい。
 - ・検診と聞くと消極的になってしまいがちだが、命に関わることもある。
- 良い生活習慣
- ・がんの怖さと検診を受けることの大切さ
 - ・自分の生活習慣を見直す

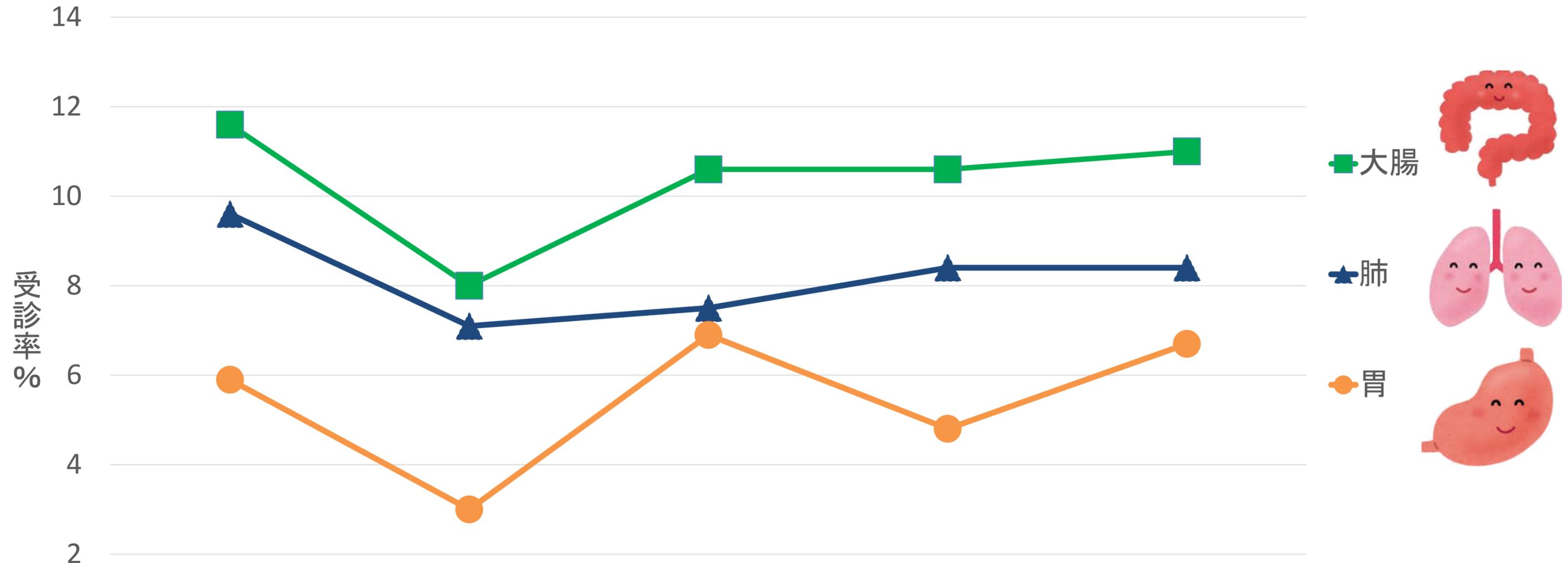


■おうちの人や友達に伝える

教育効果

- ・山口県のがん検診率の低さ
- ・たばこを吸っている父へ、がんの話をしたい。
- ・がんになる原因
 - お酒:「飲み過ぎの注意」
 - たばこ:「他者の近くで吸わないで」
 - 食事:「バランスよく」
 - 適度な運動
- ・興味深く、楽しい授業
- ・がん検診:面倒くさがらずに

[美祿市 がん検診受診率]



	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
大腸	11.6	8	10.6	10.6	11
肺	9.6	7.1	7.5	8.4	8.4
胃	5.9	3	6.9	4.8	6.7

年度別

01 山口新聞で取り上げられました



がんを知り家族の健康考える 美祢市の伊佐小6年生

2025/01/24 06:00

美祢市

[続きを読む]

02 美祢市有線テレビで放送されています



私たちのニューメディア
美祢市有線テレビ放送センター
美祢デジタル11ch

03 県大見本市で発表 しました



美祢市における小中学生へのがん教育
児童生徒が学んだこと、家族に伝えたいこと

看護学科：高田千鶴，看護学科元教員：吉村眞理

概要

背景

がん教育は、健康教育の一環として、学習指導要領に示されているものの、繊細な内容であり、その指導方法と普及啓発が課題となっている。

内容

令和3年～5年度、がんに関する科学的根拠に基づいた教育方法を検討し、小中学校関係者と連携し、美祢市の小中学校において、「がん教育」の出前授業を行った。

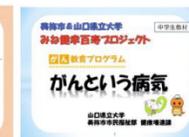
結果

がん予防のための生活習慣、早期発見につながるがん検診を、今後の自分の行動としてあげ、授業後、6割の児童生徒が家族と学習内容を共有することができていた。

ここがポイント！

1 指導案・教材作成・がん教育の実施

- 誰もが実施できる教材へ
- ほぼ、全ての小中学校で「がん教育を実施」した。



美祢市のキャラクターを活用した教材

- 児童、生徒の背景を考慮し、教育機会を準備する。
- 参加を無理強いしないことが重要。

2 児童生徒の授業終了後のアンケート結果

1. 生活習慣を整える
食事・運動・睡眠・飲酒・喫煙
2. 定期的ながん検診の受診
3. 家族に伝えたいこと
お酒・運動・喫煙
検診が大切なので行ってほしい

授業後、6割の児童生徒が家族と学習内容を共有することができていた。



美祢市住みます芸人さんと意見交換している場面



グループワークから、様々な感じ・考えたことを表現する



グループで話あったことを発表、様々な視点を共有し、思考を深める

連携先

美祢市 健康増進課 様



03

まとめ

4年間の評価

4年間の評価

【ストラクチャー・プロセス評価】

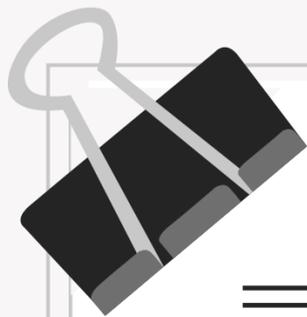
- ほぼすべての小中学校で美祢市版の「がん教育」を実施することができた。
- 令和5(2023)年度には、健康増進課保健師と小中学校の教諭・養護教諭とのチームティーチングの指導案の作成、実施ができた。
- **令和6(2024)年度には、健康増進課保健師全員が、がん教育を実施できた。**
- 事前の打ち合わせを行うことで、問題なく実施することができた。

【アウトプット評価】

- 児童・生徒ががんを正しく理解し、がんになりにくくするための生活習慣と早期発見のためのがん検診の重要性を知り、これからの自分の行動を言葉にすることができた。
- 授業終了後、がんの予防のための生活習慣の見直しやがん検診受診の大切さについて、家族に伝えたいと考えることができた。
- **約6割の児童生徒が、授業終了後、家族と話すことができていた。**
- 学校のがん教育に対するより積極的な取り組みにつながった(継続的に実施・教材配布希望)。

【アウトカム評価】

- 現時点で、家族や児童生徒の行動変容(がん検診の受診率の向上、がん罹患率の低下)に対する評価できない



[令和7年度の実施に向けて]

目標

- ✓ 学校の教員とのチームティーチングの実現
- ✓ オリジナルがん教育指導教材のブラッシュアップ、**データの更新**
- ✓ **授業終了後、学習内容を家族と共有するための仕掛け**
- ✓ 住みます芸人さんとのコラボレーションによるがん教育の継続



**検診受診行動の促進
(がん検診の受診率の向上)
につながるために**

**教育効果の波及
どのように評価するか**



—— [THANK YOU!] ——

**ありがとうございました！
今後もしよろしくお願ひします！**

美祢市市民福祉部健康増進課、山口県立大学 看護栄養学部

協力

美祢市住みます芸人 「快盗（かいとう）スズメ」 関 和紀さん、白川 誠さん
「バルーンアート芸人」 ウッチィさん